

# 調査結果の要約

## 第1章 小学校英語について

### 1. 小学校英語への関心

8割近い保護者が、小学校の英語教育に関心をもっている。また、保護者の英語の好き嫌いや英語での苦勞の有無によって、小学校英語に対する関心の有無にも違いがみられる(図1-1-1、3、4)。

### 2. 必修化に対する賛否

小学校で英語教育を必修にすることに「賛成」の保護者は76.4%、「反対」の保護者は14.0%。一方、教員は英語教育を行うことについてはおよそ3人に2人(67.1%)が賛成しているが、必修化に対する賛成意見は36.8%と保護者との意見の違いがみられる(図1-2-1、2)。

### 3. 望ましい開始学年

「小学校1年生」という回答がもっとも多く、47.8%であった。教員調査でも同様の傾向がみられ、保護者、教員ともに、小学校の早期から英語教育を開始するのが望ましいと考えている(図1-3-1)。

### 4. 小学校英語に期待できる効果

7割前後の保護者が「外国に対して興味をもつようになる」「中学校での英語学習がスムーズになる」「発音や聞き取りがうまくなる」という効果があるだろうと考えている。また、小学校英語の必修化に「賛成」の保護者の方が期待が高い(図1-4-1、2)。

### 5. 小学校英語への不安

6割以上の保護者が「教える内容が、先生や学校によって違うこと」「外国人の先生の数が足りないこと」「指導する先生の英語力が足りないこと」について不安を感じている(図1-5-1)。

### 6. 小学校英語に望むこと

9割以上の保護者が「英語に対する抵抗感をなくすこと」「英語の音やリズムに触れたり、慣れたりすること」を望んでいる。文字指導については、保護者と教員の意識にギャップがみられる(図1-6-1、2)。

### 7. 小学校英語への期待、不安や心配

#### ①期待すること

小学校英語には「英語に慣れ・親しむこと、好きになること」を期待する声をもっとも多い。さらに、「聞く・話す力」「発音や聞き取り」など、英語の音声に関する力がつくことへの期待も大きい(図1-7-1)。

#### ②不安や心配に思うこと

小学校英語への不安や心配としては、「日本人としてのアイデンティティーの揺れや日本語力の低下」をあげる声をもっとも多い。また、「他の教科の学習がおろそかになること」への心配も多くあげられている(図1-7-2)。

## 第2章 学校での英語学習

### 1. 学校での英語教育の認知

#### ①実施の認知

子どもが小学校で英語教育を「受けている」と答えた保護者は、全体の約6割。また、子どもの学年、英語教育の年間時数、地域によって、保護者の認知の程度に違いがある(図2-1-1、3～5)。

#### ②学校での英語教育内容の認知

子どもが学校で英語教育を「受けている」と回答した保護者のうち、内容を「知っている」と答えた保護者は4割程度。しかし、英語教育の年間時数が「35時間(週1回程度)以上」の場合は約6割まで認知が高まる。また、保護者の子どもに対する進学期待や英語教育への関心の程度によっても違いがみられる(図2-1-6～9)。

### 2. 家庭での子どもの様子

#### ①家庭での英語学習の会話

子どもが学校で英語教育を「受けている」と回答した保護者のうち、子どもが学校での英語学習について家庭で話している割合は約6割。性別では女子の方がその割合が高く、学年別では、6年生がやや低い(図2-2-1～3)。

#### ②家庭での学習内容の繰り返し

学校の英語学習の内容を家庭で繰り返す子どもは、子どもが学校で英語教育を「受けている」と回答した保護者のうち4割程度。低学年ほどその割合は高い。また、「英語で仕事ができるくらいの英語力」など、保護者が子どもに高い英語力を期待する場合は、学校での学習内容を子どもが家庭で繰り返す割合が高い(図2-2-6～8)。

### 3. 学校での英語教育への満足度

子どもが学校で英語教育を「受けている」と回答した保護者のうち、現在の学校での英語教育に「満足している」割合は3割に満たない。ただし、学校での英語教育の内容を保護者が知っている場合、保護者が英語教育に関心がある場合は、「満足している」割合がやや高くなる。それ以外の場合は、「よくわからない」という回答が多い(図2-3-1、2、4)。

## 第3章 教育観・子どもの様子

### 1. 学校に重視してほしい指導や教育

学校教育としてどのような指導や教育を重視してほしいかをたずねたところ、8割前後の保護者が、「人間関係づくりやコミュニケーション力を高める教育」「国語や算数などの教科指導」をあげている(図3-1-1)。

### 2. 増やしてほしい授業時間

もし週に1時間だけ授業の時間が増やせるなら、どの時間がよいかをたずねたところ、「英語」が第1位で25.4%の保護者が選択した。第2位は「情報」で20.7%だった。また、「英語」は都市部の方が、「情報」は郡部の方が選択される割合が高い(図3-2-1、3)。

### 3. 子どもの教育方針

86.7%の保護者が「子どもには仕事に役立つ資格や技能を身につけさせたい」、78.4%が「子どもにいろいろな体験の機会をつくるよう意識している」と回答している。一方、「子どもが英語や外国の文化にふれるよう意識している」のは34.2%だった。こうした教育方針については、地

域や母親の学歴によって違いがみられる(図3-3-1、表3-3-1)。

#### 4. 英語教育に関する意識

87.1%の保護者が「今後の国際環境を考えると、英語が話せるようになることは必要だ」と考え、75.0%の保護者が「英語はできるだけ早い時期から学ぶのがよい」と考えている。また、教員もほぼ同様の傾向であり、英語の必要性を感じているという意識は、保護者も教員も共通している(図3-4-1、2)。

#### 5. 子どもに期待する英語力

45.1%の保護者が、子どもには「日常生活で困らない程度の英語力」を望んでいる。特に都市部や、子どもに大卒以上の進学を望む保護者の場合は、より高い英語力を期待している。一方で、「今、楽しく取り組めば、とくに役に立たなくてもよい」という保護者も21.7%いる(図3-5-1、表3-5-1)。

#### 6. 子どもの英語力

保護者の回答によれば、半数以上の小学生が自分の名前やあいさつなどの簡単なことは英語で言えるが、アルファベットの文字を書くことについては学年差がある。また、学校外での英語学習の有無や地域、母親の学歴によって、子どもの英語力に違いがみられた(図3-6-1～3、表3-6-1)。

#### 7. 進学

##### ①進学期待

およそ半数の保護者が、「四年制大学まで」以上を子どもに期待している。こうした進学期待は、地域や母親の学歴によって大きな違いがみ

られる(図3-7-1～3)。

##### ②中学受験

およそ1割の保護者が、子どもは中学受験を「する」予定だと回答している。中学受験予定は特に大都市に多く、22.1%である。さらに「まだ決めていない」という回答も28.0%になっている(図3-7-4、5)。

#### 8. 子どもの学習

保護者に子どもの学習についてたずねたところ、家庭学習時間の平均は52分だった。学習時間は学年があがるにつれて少しずつ増加する。また、高学年になると、成績上位層と中・下位層との学習時間差が顕著になる(図3-8-2～4)。

## 第4章 学校外での英語学習

### 1. 学校外での英語学習

#### ①学校外での英語学習

学校外で英語学習を「行っている」小学生は2割弱。この割合は、大都市と中都市だと2割程度だが、郡部では1割程度と地域差がある。また、保護者自身の英語とのかかわりによって、子どもに学校外で英語学習をさせるかどうかは異なっている(図4-1-1、4)。

#### ②教室や教材の種類

学校外で英語学習を「行っている」場合の教室や教材の種類をみると、52.3%が「英会話教室」で、23.1%が「学習塾の英語コース」だった。また、高学年になると、「学習塾の英語コース」が増加する(図4-1-5)。

#### ③開始年齢

学校外で英語学習を「行っている」場合の開始年齢をたずねたところ、低・中学年では「小学校に入学する前(3～5歳くらい)」がもっとも多かった。高学年の場合には「小学校5～6年生くらい」がもっとも多い(図4-1-6)。

#### ④学習の理由

学校外で子どもに英語学習をさせている保護者のうち、約6割が「英語を好きになってほしいから」「英語を話せるようになってほしいから」という理由をあげている。また、高学年になると、「中学校での英語学習に役立つから」という理由が大幅に増える(図4-1-7)。

#### ⑤学習の最大の理由

学校外で子どもに英語学習をさせている最大の理由としては、「英語を話せるようになってほしいから」がもっとも多くあげられた。また、高学年になると、「中学校での英語学習に役立つから」ということを最大の理由にあげる割合が大幅に増える(図4-1-8、表4-1-4)。

### 2. 英語学習の望ましい場

子どもが英語学習をするのに望ましい場をたずねたところ、50.1%の保護者が「学校だけで学ばばよい」と回答し、36.4%が「学校と学校外の両方で学ぶのがよい」と回答している。これには地域差があり、大都市では「学校と学校外の両方で学ぶのがよい」の方が多いが、中都市や郡部では「学校だけで学ばばよい」という回答の方が多い(図4-2-1、2)。

### 3. 学校外の習い事・学習

学校外の習い事や学習でもっとも多かったのは、「スポーツ(水泳、体操、野球、サッカーなど)」で、5割を超える小学生が行っている。全般に、大都市の方が、学校外の習い事や学習を行っている割合は高い傾向にある(図4-3-1、表4-3-2)。

### 4. 教育費

#### ①学校外の教育費

学校外での習い事や学習などにかかる1か月の費用は、「5,000円～10,000円未満」が最多で21.8%。平均金額でみると、10,000円程度だった。また、学年があがるにつれてその金額は増加する(図4-4-1、2)。

#### ②英語学習の教育費

学校外で英語学習を「行っている」場合の1か月の費用は、「5,000円～10,000円未満」が最多で56.1%。平均金額でみると、7,000円弱だった(図4-4-5)。

## 第5章 保護者自身の様子

### 1. 保護者と英語とのかかわり

保護者自身の英語とのかかわりをたずねたところ、英語が「好き」と回答した保護者は4割程度、英語を使うことに「自信がある」と回答したのは約1割だった。また、自分が受けてきた学校の英語教育が「役に立った」という回答は2割弱、今までに英語で苦労したことが「あった」という回答は6割弱だった(図5-1-1～4)。